

めぐみイエス・キリスト教会

2018年3月25日(日) 受難週礼拝
週報「通算第397号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈禱会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年3月25日(受難週礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150

【交読文】 No.50 イザヤ書第53章 p. 919

【賛美Ⅱ】 新聖歌112「カルバリ山の十字架」p. 158

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.12 「イエスの十字架」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書19章31節～42節(新約p. 202)

【祈 禱】

【説 教】 《イエスをそこに納めた》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

●ポイント1 旧約聖書における預言の成就とは？

※詩篇34篇20節「ダビデによる詩篇および預言」 (旧約p.859下段)

主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、砕かれることはない。

※ゼカリヤ書12章10節「紀元前520年頃の預言」 (旧約p.1431上段)

12:10 私は、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、私を仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

※ヨハネの黙示録1章7節「主イエス・キリストの再臨」(新約p.437下段)

見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族は皆、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。

●ポイント2「アリマタヤのヨセフ」とは？

※マタイの福音書27章57節「主イエスの隠れた弟子」(新約p.56下段)

27:57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。

※マルコの福音書15章42節～47節「最高議会議員」(新約p.93下段)

15:42 すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、

15:43 アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国を待ち望んでいた人であった。

15:44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを問いただした。

15:45 そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスのからだをヨセフに与えた。

15:46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。

15:47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。

●ポイント3「彼らはイエスをそこに納めた」と言う意味は？

※第一コリント15章3節～4節前半・26節「福音とは？」(新約p.310下段)

15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

15:4 また、葬られたこと、

15:26 最後の敵である死も滅ぼされます。

◎先週のメッセージの概要【あなたがたは知っています】

《「私がどこへ行くかあなたがたは知っており、またその道も知っています。」

この場面は、最後の晩餐の続きです。イエス様と弟子たちは、まだヨハネ・マルコの家滞りしています。ペテロは、「主よ。どこにおいでになるのですか。」と質問しました。ただペテロの質問は、この世の場所のことであって、実際にこれからイエス様と弟子たちは、ゲッセマネに行くこととなります。

しかしイエス様の答えは、それとは違うのです。イエス様は、「あなたがたのために、私は場所を備えに行くのです。」と言われました。そして次に言われたことが、「あなたがたは知っています。」ということなのです。

イエス様は、はっきりと「行く道」について、トマスに言われます。「私が道であり、真理であり、いのちなのです。私を通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

「どこにおいでになるのですか。」どこへ、とは「父のみもと」なのです。

そして「その道」とは、十字架です。

「私たちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。そして、あざけり、むち打ち、十字架につける為、異邦人に引き渡します。しかし人の子は三日目によみがえります。」と、イエス様は、何度も受難予告をされました。

そしてさらに、十字架にかけられる二日前に、「あなたがたの知っているとおりに、二日たつと過越の祭りになります。人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」とも言われたのです。

それゆえ何が起こるのか、あらかじめ彼らは知らされていたのです。知っていたのです。しかし彼らは、そのことについてはイエス様に、聞くことも尋ねることも出来なかったのです。十字架なくしては、人類に救いはありません。十字架なくしては、罪が赦されることも、また裁きから逃れることも出来ません。》

◎お知らせ

1. 次回はイースター礼拝となり、4月1日(日)午前10時から行ないます。また聖書研究・祈祷会は、4月4日(水)午後6時15分です。3月28日はお休みです。
2. 鈴木師夫妻は、3月28日(水)～30日(金)熊本の藤平久代さんの所に行き、ホームコンサートを行ない、続けて南九州旅行をします。お祈り下さい。
3. 3月26日(月)丸11年行なわれたITCNが、いよいよ最後を迎えます。